

## 助産学概論

担当教員 松本 鈴子

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

### 【授業のねらい】

助産師活動の歴史的背景をふまえ、助産の意義や基本的概念、母子保健と助産の諸制度を理解し、医療保健従事者の中で助産師が果たす責任と役割について学ぶ。また、リプロダクティブヘルス、少子化社会などの視点から助産師のあり方を展望する。さらに生命倫理や倫理問題について理解を深め、自己の倫理観や助産観を培う。

### 【授業の展開計画】

1. 日本と諸外国における助産の変遷
2. 助産の定義・意義、助産師の法的責務と業務範囲
3. 助産実践における倫理①
4. 助産実践における倫理②
5. 助産実践に関連する理論①
6. 助産実践に関連する理論②
7. 助産師の教育と研究
8. 母子保健活動と助産の課題と展望

### 【履修上の注意事項】

授業全体:授業前後に教科書、配布資料を通読する

第3回授業後に課題レポート:助産看護領域に関連する理論あるいは概念を一つ選択しレポートを作成する

### 【評価方法】

筆記試験80%、授業への参加状況(学習姿勢・発言) 20%

### 【テキスト】

助産師基礎教育テキスト 第1巻 日本看護協会出版会

### 【参考文献】

講義で適宜紹介・配布する

マースデン・ワーグナー著;井上裕美他監訳:WHO勧告にみる周産期ケアとその根拠

## 性と生殖の形態と機能 I

**担当教員** 田代 浩徳(非常勤講師)、岩政 仁(非常勤講師)、間部 裕代(非常勤講師)、  
田島 朝宇(非常勤講師)

**配当年次** 1年

**開講時期** 第1学期

**単位区分** 必修

**授業形態** 講義

**単位数** 1

**準備事項**

**備考**

### 【授業のねらい】

性と生殖に関する解剖・生理を理解し、リプロダクションに関わる生理学的な機能や遺伝の臨床について教授する。さらに、不妊などの後遺障害を引き起こす性感染症について教授する。ライフサイクル各期に起こる主な疾患について教授する。

### 【授業の展開計画】

1. 発生と形態 性腺の発生と性の分化とその異常
2. 遺伝と遺伝性疾患 1 (染色体異常)
3. 遺伝と遺伝性疾患 2 (遺伝子疾患)
4. 性感染症
5. 不妊症、不育症
6. ライフサイクル各期に起こる主な疾患 (小児期・思春期)
7. ライフサイクル各期に起こる主な疾患 (成熟期)
8. ライフサイクル各期に起こる主な疾患 (更年期・老年期)

### 【履修上の注意事項】

### 【評価方法】

授業態度 (10%) 期末試験 (90%)

### 【テキスト】

「病気がみえる 婦人科・乳腺外科 vol 9」

「病気がみえる 産科 vol 10」

### 【参考文献】

## 周産期医学

担当教員 石松 順嗣（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

妊娠・分娩・産褥の過程における生理的範囲を超える状態の発生を想定しながら、助産師としての業務を行い、対象となる女性および家族への情報提供と支援をすることができる。特に周産期における状態の変化は緊急を要することが多いため、対象の状態を的確に判断するとともに医療チームにおける連携（的確な情報提供と時機を逸さない緊急対応の準備）ができる。

### 【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	妊娠の生理と確定診断 妊娠の成立、妊娠の早期診断、妊娠に伴う全身の変化
2	妊娠経過と産科学的診断 妊娠経過の診断、妊娠に関連した検査、出生前検査
3	妊娠経過と産科学的診断 胎児の発育の診断
4	妊娠経過と産科学的診断 胎児モニタリング
5	妊娠期の異常とそのケア 妊娠悪阻、妊娠持続期間の異常
6	妊娠期の異常とそのケア 胎児の異常、着床の異常
7	妊娠期の異常とそのケア 胎児付属物の異常
8	妊娠期の異常とそのケア 合併症妊娠
9	妊娠期の異常とそのケア 母子感染
10	分娩期の異常とそのケア 娩出力の異常、胎児および胎児付属物の異常
11	分娩期の異常とそのケア 娩出力の異常、胎児および胎児付属物の異常
12	分娩期の異常とそのケア 産道の異常、分娩時の異常
13	分娩期の異常とそのケア 分娩に伴う損傷、合併症
14	分娩期の異常とそのケア 産科手術の介助とケア
15	産褥期の異常とそのケア 身体的な問題、精神的な問題

### 【履修上の注意事項】

看護師としての有資格者であるべき母性看護学の知識と技術が身に付いているものとして授業は進められるので、これらの確認を常にしておく。周産期医学、生殖医療に関する現在の情報や社会状況に関心を持ち続ける。講師の都合で、授業の内容や展開の順番が前後することがある。

### 【評価方法】

試験100%であるが、補充としてレポートの提出を求め、その内容を試験点数に加える場合もある。

### 【テキスト】

後日、提示する。

### 【参考文献】

「病気が見える10」 「産婦人科研修の必須知識 2016-2018」

## 新生児・乳幼児学

担当教員 森 博子（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

- ・新生児の生理学的特徴を理解し、全身状態のアセスメントを行うことができる。
- ・早産児・低出生体重児のケアについて理解することができる。
- ・ハイリスク児の病態について理解し、必要なケアを実施することができる。

### 【授業の展開計画】

1. 新生児の適応生理：呼吸・循環・体温調節・肝機能について
2. 新生児の適応生理：消化器・水・電解質・免疫・神経  
新生児のフィジカルアセスメント
3. 出生時・早期新生児のケア
4. 早産児・低出生体重児のケア 総論・各論 実際の管理法
5. ハイリスク児の病態のケア：胎児発育異常・呼吸障害・血液
6. ハイリスク児の病態のケア：心疾患・黄疸・神経
7. ハイリスク児の病態のケア：消化管・外科疾患・感染
8. まとめ・国家試験問題対策

### 【履修上の注意事項】

毎回スライドを用いて講義を行います。わからないところは積極的に質問してください。  
7回目の講義終了後レポートの課題を出します。期限を守って提出してください。

### 【評価方法】

試験60%、レポート30%、発表10%

### 【テキスト】

助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 医学書院

### 【参考文献】

## 生殖生命倫理学

担当教員 門岡 康弘（非常勤講師）、大場 隆（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

本コースは生殖医療に関連する生命・医療倫理問題全般を取り扱い、助産学専攻科学生が生殖生命倫理を深く理解し、医療現場、研究、教育において活用できるようにすることを目的とする。到達目標は、1 生命・医療倫理の総論的事項を理解できる。2 生殖生命倫理領域の歴史的問題、代表的問題、時事問題を知り、倫理的観点から理解し自らの見解を持つことができる。3 倫理的問題を他の人々と話し合い、より良い判断に到達することができる、の3つである。

### 【授業の展開計画】

1. 生命・医療倫理総論：生命・医療倫理の歴史および倫理原則を学び、パーソン論、母子利害衝突、優生思想等の重要概念を理解する。（門岡）
2. 人工妊娠中絶：中絶の倫理的是非を検討するために、胎児の権利・地位、プロライフ・プロチョイス対立、各国の状況、倫理と法の文化的差異を学ぶ。また近年問題になっている医療専門職の良心的に基づく中絶関与拒否、患者ケア拒否の問題を考察する。（大場）
3. 出生前診断：胎児の疾患・障害を理由とした中絶に関わる出生前診断の在り方について検討する。また「ロングフル・ライフ」裁判、新型出生前診断（NIPT）のインパクト、我が国の着床前遺伝子診断の現状、そして救世主ベビーの問題を検討する。（大場）
4. 重篤疾患新生児の医療：予後不良の新生児が誕生した場合の治療差し控え・中止、安楽死等の問題を検討する。その根底にある「生命の質」論争について理解する。結合双生児分離事例についても議論する。（門岡）
5. 生殖補助技術：人工授精（AID/AIH）、体外受精（IVF）等の技術がもたらした影響を学び、配偶子提供、出自を知る権利、代理出産、クローンなどの具体的問題を検討する。（大場）
6. エンハンスメント：生殖補助技術と遺伝工学の発達によって生じた諸問題を、治療と能力強化の境界、デザイナーベビーや男女産み分けの是非等を通して考える。（門岡）
7. 生殖研究倫理：研究倫理の原則および歴史的背景を知り、ヒトES細胞研究、生殖医療領域の医学研究の問題を検討する。研究者の不正行為についても学ぶ。（門岡）
8. 他の諸時事問題：現代社会で問題になっている避妊、強制不妊手術、死後生殖、脳死妊婦出産、赤ちゃんポスト等の問題を倫理的側面から熟考する。（大場）

### 【履修上の注意事項】

授業で配布された資料にはすべて目を通し理解を深める。

### 【評価方法】

試験70%、発表30%

### 【テキスト】

特に指定なし

### 【参考文献】

「ユネスコ生命倫理ケースブック」翻訳版  
丸善出版 シリーズ生命倫理学 第6巻『生殖医療』、第7巻『周産期・新生児・小児医療』

## 母子の健康科学

担当教員 樋口 マキエ（非常勤講師）、野口 恭庸、石井 里加子、未定（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

妊娠中の母体と胎児の健康を維持するため、保護を加えて安全を確保するのに必要な基礎知識を、薬物、鍼灸、口腔保健、運動の面から、論理的に学ぶ。

## 【授業の展開計画】

妊娠と薬物 【樋口】（火）第5時限

- |   |                                     |          |
|---|-------------------------------------|----------|
| 1 | 胎児への薬物の影響（催奇形性、胎児毒性）                | 5月9日（火）  |
| 2 | 妊婦・母体への薬物の影響（内分泌攪乱物質、排卵障害治療薬、子宮収縮薬） | 5月16日（火） |
| 3 | 新生児・乳幼児・授乳婦への薬物の影響（母乳を介する乳幼児への薬物移行） | 5月23日（火） |

妊娠と鍼灸 【野口】（木）第4時限目

- |   |                     |          |
|---|---------------------|----------|
| 4 | 東洋医学の基礎知識           | 4月27日（木） |
| 5 | 女性の人生のトータルサポートと東洋医学 | 5月11日（木） |
| 6 | 助産師に求められる東洋医学の知識    | 5月18日（木） |
| 7 | セルフケアを含む生活の中の東洋医学   | 5月25日（木） |

妊娠と口腔保健 【田中】（月）第4時限目

- |    |                |          |
|----|----------------|----------|
| 8  | 歯・口腔の発生・発育     | 5月29日（月） |
| 9  | 乳幼児の摂食と口腔機能の発達 | 6月5日（月）  |
| 10 | 乳幼児の口腔保健       | 6月12日（月） |
| 11 | 妊婦・産後の口腔保健     | 6月19日（月） |

妊娠と運動 【浅海】（金）第4・5時限目

- |    |  |          |
|----|--|----------|
| 12 | フィットネス基礎理論（運動生理学、機能解剖学、運動処方、トレーニング法等）    | 6月16日（金） |
| 13 | マタニティフィットネス理論（意義、マタニティフィットネスの生体負担とその影響等） | 6月16日（金） |
| 14 | 実技（マタニティピクス：ストレッチ、トレーニング等）               | 6月23日（金） |
| 15 | 実技（目的別エクササイズ：不定愁訴、分娩、産後）                 | 6月23日（金） |

評価

- |    |      |
|----|------|
| 16 | 期末試験 |
|----|------|

## 【履修上の注意事項】

4つの分野からの講義に分けられる。各自ノートを取り、その日の内に復習する。各分野ごとに、根拠を持って理解し、要点をまとめておく。

## 【評価方法】

4つの分野、各25点（合計100点）、試験形式（レポート、小テスト、期末試験など）は各教員に一任。

## 【テキスト】

助産学講座3 母子の健康科学（医学書院）、 教員作成配布プリント

## 【参考文献】

コメディカルのための薬理学 第2版（朝倉書店）

## 助産診断・技術学 I

担当教員 松本 鈴子、田島 朝宇（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

助産過程の展開に必要な原則と知識をもとに、妊娠期・胎児期の経過、母子の健康状態、生活状況を母子双方に与える影響をふまえて、アセスメントし、診断する過程を事例での演習を通して学ぶ。

また、妊娠・分娩・産褥を一連の過程としてとらえ、妊婦が健康な妊娠経過をたどれるよう、ケアの介入方法について理解を深める。さらに、超音波画像診断法は基本的な操作と診断方法を学ぶ。

## 【授業の展開計画】

1. 助産診断の概念：松本
2. 母子の健康の特徴と助産診断：松本
3. 妊婦と胎児の助産診断：松本
  - 1) 妊娠初期の助産診断
  - 2) 妊娠中期の助産診断①
  - 3) 妊娠中期の助産診断②
  - 4) 妊娠後期の助産診断①
  - 5) 妊娠後期の助産診断②
  - 6) 妊娠期の助産診断まとめ
4. 妊婦の健康診査（技術演習）①②：松本
5. 助産師による超音波画像診断法：田島
  - 1) 超音波画像診断法の原理と診断方法
  - 2) 超音波画像診断法の実際（演習）
6. 妊婦と家族への助産ケア：松本
  - 1) 妊婦の日常生活適応へのケア①
  - 2) 妊婦の日常生活適応へのケア②
  - 3) 妊婦とパートナーへの親役割準備ケア

## 【履修上の注意事項】

松本：授業は事例を展開し、演習形式で行う。各回授業後に、課題を提示する  
田島：超音波画像診断法は臨床講義・演習 事前に注意事項を配布

## 【評価方法】

試験70%、課題20%、授業への参加状況10%

## 【テキスト】

助産師基礎教育テキスト 第4巻 日本看護協会出版会  
今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践過程 南江堂

## 【参考文献】

講義で適宜紹介・配布する。

## 助産診断・技術学Ⅱ

担当教員 松本 鈴子、村上 恵理（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 2

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

助産過程の展開に必要な原則と知識をもとに、分娩経過、母子の健康状態、生活状況をアセスメントし、診断する分娩期の助産過程を学ぶ。妊娠期と同様に母子が双方に与える影響や妊娠・分娩・産褥を一連の過程としてとらえ、特に対象の安全・安楽及び主体性を重視し、的確な判断ができるように助産診断及び助産ケアを学習する。また、子どもの生命の安全に欠かすことができない胎児心拍数モニタリングの判読方法の理解を深める。

## 【授業の展開計画】

1. 産婦の健康と助産診断の特徴：松本
2. 産婦と胎児の助産診断：松本
  - 1) 分娩経過予測の助産診断
  - 2) 入院時の助産診断 ①②
  - 3) 助産診断（修正1）①②
  - 4) 助産診断（修正2）①②
  - 5) 助産診断（修正3）①②
  - 6) 分娩3期の助産診断 ①②
  - 7) 産婦の助産診断のまとめ①②
3. 産婦と胎児の健康診査：松本
  - 1) 分娩進行状態の観察
  - 2) 産婦の健康状態と基本的ニーズの観察
  - 3) 産婦・胎児の健康診査(技術演習) ①②③
4. 産婦と家族への助産ケア：松本
  - 1) 基本的ニーズ及び分娩進行にそった助産ケア①②
  - 2) 産痛緩和の原理と方法
  - 3) 産痛緩和の原理と方法(技術演習)①②
5. アクティブバース：村上
  - 1) アクティブバースと助産ケア
  - 2) アクティブバースと助産ケア(技術演習)
6. 人工分娩における助産ケア：松本
  - 1) 産婦や家族の心理と助産師の役割
  - 2) 誘導分娩や陣痛促進分娩における助産ケア
  - 3) 吸引分娩における助産ケア
7. まとめ：松本

## 【履修上の注意事項】

松本：授業は事例を展開し、演習形式で行う。  
各回授業後に、課題を提示する。

## 【評価方法】

筆記試験70%・課題20%・授業への参加状況10%

## 【テキスト】

日本看護協会出版会 助産師基礎教育テキスト第5巻  
北川真理子、内山和美編：今日の助産 改訂第2版 南江堂

## 【参考文献】

医学書院 助産学講座 第7巻 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期



## 助産診断・技術学Ⅲ

担当教員 宮里 邦子（非常勤講師）、吉田 勇一

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

褥婦の健康状態、生活状況、親役割獲得状況をアセスメントし、助産診断する過程を学ぶ。新生児が子宮外生活に適応し、乳幼児へと成長・発達していくよう、子宮内環境や親子関係が与える影響に関する知識をもとに、新生児期および乳幼児期の健康状態、成長・発達状態をアセスメントし、診断する過程を学ぶ。さらに、褥婦の健康、親役割獲得を促進するケア、新生児・乳幼児の遊び・生活習慣などから精神運動発達を促すケアを学ぶ。

## 【授業の展開計画】

1. 褥婦・新生児の助産診断：宮里
  - 1) 出産後24時間の褥婦
  - 2) 出産後24時間以降の褥婦
  - 4) 出生直後～24時間の新生児
  - 5) 出生24時間以降の新生児
2. 胎児期・新生時期・乳児期の正常運動発達：吉田
3. 褥婦と新生児の健康診査：宮里・渡邊
  - 1) 新生児の出生直後及び24時間の健康診査（技術演習）
  - 2) 早期新生児の健康診査（技術演習）
4. 褥婦と新生児へのケア：宮里
  - 1) 褥婦の日常生活適応へのケア
  - 2) 新生児の子宮外生活適応へのケア
  - 3) 褥婦とパートナーへの親役割獲得へのケア
5. 母乳育児への支援：宮里
  - 1) 母乳育児促進支援と助産師の役割
  - 2) 母乳育児促進へのケア：授乳・乳房ケア技術（技術演習）
6. 出産1週間以降の母子の健康診査とケア
  - 1) 家庭訪問における健康診査
  - 2) 出産後1か月における健康診査

## 【履修上の注意事項】

新生児学・乳幼児学の復習に努めておくこと。  
乳幼児の発育・発達への支援を関連づけて学ぶこと。

## 【評価方法】

筆記試験100%

## 【テキスト】

助産師基礎教育テキスト第6巻 日本看護協会出版会  
今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践過程 南江堂

## 【参考文献】

P.H. クラウス、J.H. ケネル、P.H. クラウス著 竹内 徹訳：親と子のきずなはどうしてつくられるか  
医学書院 2006 / 仁志田博司：新生児学入門 第3版 医学書院

## ハイリスク助産学 I

担当教員 宮里 邦子（非常勤講師）、田中 裕子（非常勤講師）、藤本 美枝（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

正常分娩の介助技術や助産学の知識を基礎にして、近年、増加している帝王切開手術や弛緩出血、また、新生児がハイリスク状態である胎児機能不全及び新生児仮死など緊急時における助産師の役割と対応を学ぶ。そして、このような人工分娩や生命が危険となる状況が産婦や家族に及ぼす影響を理解し、助産師としての役割やケアのあり方について理解を深める。

### 【授業の展開計画】

1. ハイリスク状態にある妊・産婦・褥婦へのケア
  - 1) GMD合併妊婦におけるケア：藤本
  - 2) 経膈分娩後の弛緩出血における対応：宮里
    - (1) 弛緩出血の予防
    - (2) 弛緩出血の判断と早期対処
  - 3) 帝王切開手術における助産師の役割：宮里
    - (1) 予定帝王切開術におけるケア
    - (2) 緊急帝王切開手術におけるケア
2. ハイリスク新生児とNICUにおけるケア：田中
  - 1) ハイリスク新生児ケアの基本
  - 2) ハイリスク新生児の家族のケア
3. 新生児救急蘇生法：田中
  - 1) 胎児機能低下・新生児仮死における助産師の役割
  - 2) 新生児救急蘇生法（技術演習）
4. まとめ

### 【履修上の注意事項】

正常妊娠・分娩・産褥の生理と診断・看護について復習しておくこと。

### 【評価方法】

筆記試験100%

### 【テキスト】

助産師基礎教育テキスト第7巻 日本看護協会出版会  
日本版救急蘇生法ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト メジカルビュー社

### 【参考文献】

流産・早産・新生児死で子を亡くした親の会：誕生死 三省堂  
野辺明子・横尾京子他編：障害をもつ子を産むということ 中央法規

**助産診断・技術学演習 I**

担当教員 松本 鈴子、牛之濱 久代、増山 利華、宮里 邦子（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義・演習

単位数 1

準備事項

備考

**【授業のねらい】**

正常分娩の介助に必要な基本的技術と新生児の子宮外適応を促進するために必要な助産看護技術の方法を学ぶ。特に的確な判断のもと、対象の安全・安楽及び主体性を重視し、エビデンスにもとづいたケアを提供できるよう、助産の基本的技術を学ぶ。

**【授業の展開計画】**

1. 正常分娩の基本的な介助技術
  - 1) 助産師の役割と介助技術：松本
  - 2) 分娩介助の準備：松本
  - 3) 胎児娩出の介助：松本・宮里
  - 4) 新生児出生直後の介助：松本・宮里
  - 5) 胎盤娩出介助～第4期における介補：松本
  - 6) 一連の分娩介助① 松本  
一連の分娩介助② 宮里  
一連の分娩介助③ 松本
2. 人工破膜と臍帯巻絡の解除技術：松本
3. 事例に即した分娩介助
  - 1) 初産婦と経産婦の事例に即した介助① 松本
  - 2) 初産婦と経産婦の事例に即した介助② 宮里
4. 会陰部切開の判断と縫合術：松本
5. 分娩介助技術試験：松本・宮里・牛之濱・森口・渡邊
6. 分娩介助技術の自己・他者評価：松本
  - 1) 介助技術の自己評価
  - 2) 介助技術の他者評価

**【履修上の注意事項】**

エビデンスをふまえ、技術練習をすること。演習室の整理整頓に留意する  
授業以外に演習室を使用する場合には事前に連絡すること  
\*分娩介助技術試験については事前にオリエンテーションを実施する

**【評価方法】**

分娩介助技術試験50%、筆記試験50%

**【テキスト】**

助産師基礎教育テキスト 第5巻 日本看護協会出版会  
今日の助産マタニティサイクルの助産診断・実践過程 南江堂

**【参考文献】**

適宜、資料を配布する

## 母子関係の援助論

担当教員 宮里 邦子（非常勤講師）

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

### 【授業のねらい】

母と子の健康を支援するための基本的知識や理論を理解し、 母子を取り巻く社会の変化に対応した母子援助について考えることができる。

### 【授業の展開計画】

1. 母子を取り巻く社会環境
2. 母子関係の理論
3. 不妊治療・出生前診断に関わる心理的問題
4. 流産・死産、子どもの喪失の悲嘆反応
5. 産前うつ病・マタニティーブルーズ・産後うつ病
6. 育児不安
7. 小児虐待
8. グループワーク・まとめ

### 【履修上の注意事項】

日頃からマスメディアや著書を通して、母子や父子に関わる社会的問題や情報に関心を持つこと

### 【評価方法】

筆記試験70%、課題レポート30%

### 【テキスト】

### 【参考文献】

講義時に提示・紹介する

## 健康教育方法論

担当教員 松本 鈴子、牛之濱 久代、増山 利華

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義・演習

単位数 1

### 【授業のねらい】

健康教育とヘルスプロモーションの立場から、女性と家族、個人や社会が抱えている健康課題の解決策を教育ならびに環境面から理解を深め、個人および集団における健康教育の企画・運営・評価の一連の展開方法を学ぶ。

### 【授業の展開計画】

1. 女性の健康課題と健康教育の重要性：牛ノ濱
  - 1) 女性の健康とヘルスプロモーション
  - 2) 行動変容モデルと理論
2. 健康教育の展開方法：松本
  - 1) 個人・集団における周産期の健康教育
  - 2) 指導案作成方法
3. 家族計画と受胎調節：牛ノ濱
  - 1) リプロダクティブヘルス・ライツと 家族計画
  - 2) 受胎調節実施指導員の役割と受胎調節の方法
  - 3) 褥婦に対する受胎調節の保健相談・指導①②
4. 妊婦と家族への保健相談・指導：松本
  - 1) 妊婦の健康と生活に関する保健相談①②
  - 2) 妊婦とパートナーへの分娩・親役割準備教育①②
5. 褥婦と家族への保健相談・指導：宮里
  - 1) 褥婦の健康と生活に関する保健相談・指導①②
  - 2) 新生児の健康と生活に関する保健相談・指導

### 【履修上の注意事項】

授業3-5は、指導案を作成し、ロールプレイの実施、評価を行う。各自、参考書・文献を活用すること。

### 【評価方法】

指導案作成70%、授業への参加（学習姿勢・発表）30%

### 【テキスト】

助産師基礎教育テキスト第3巻 日本看護協会出版会

### 【参考文献】

## 地域母子保健

担当教員 松本 鈴子、福本 久美子

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 通年

授業形態 講義・演習

単位数 1

### 【授業のねらい】

我が国の母子保健施策について概観し、地域で暮らす母子及びその家族の健康の保持増進、健康課題の解決に向けた母子保健システム・事業について理解を深める。また、少子高齢化社会の中で、地域の母子保健活動における助産師の役割や課題について考察する。

### 【授業の展開計画】

1. 地域母子保健の意義と母子保健システム：福本
2. 母子保健の現状と動向：松本
3. 母子保健の関係法規・制度と各行政機関の役割：福本
4. 母子保健施策と関係機関との連携：福本
5. 母子保健活動の展開：女性のライフサイクルへの支援①②③：松本
6. 地域母子保健における助産師の役割について：福本・松本

### 【履修上の注意事項】

二学期に開講する。

授業での学びと実際社会で取り組まれている支援などを関連させて学び、母子保健における助産師の役割についても視野を広げて考えること。

### 【評価方法】

課題レポート70%、授業への参加状況(学習姿勢・発言状況) 30%

### 【テキスト】

助産学講座9：地域母子保健・国際母子保健 医学書院  
母子保健の主なる統計（28年度刊行版）

### 【参考文献】

福井トシ子編「助産師業務要覧」 第2版 日本看護協会出版会

## 助産管理

**担当教員** 松本 鈴子、未定、浦崎 貞子（非常勤講師）、宮里 邦子（非常勤講師）

**配当年次** 1年

**開講時期** 第2学期

**単位区分** 必修

**授業形態** 講義

**単位数** 2

**準備事項**

**備考**

### 【授業のねらい】

周産期における質と安全を保障する取り組みを学び、その上で求められる周産期医療システムや助産業務のあり方を考える。また、病院・助産所等の助産サービスの実際を知り、周産期医療体制の中での職種間連携や地域連携のあり方を考える。また、周産期医療における医療事故の法的責任、リスクマネジメントにおける国・病院・助産所の取り組みを理解する。

### 【授業の展開計画】

1. 助産管理の基本概念：松本
2. 助産師の責任・業務に関する関係法規と法的義務・規則①②：松本
3. 周産期医療システムと助産師の役割：松本
4. 助産業務管理の実際
  - 1) 病院における助産業務管理：羽江
    - (1) 病院内の助産管理（病棟管理・助産外来・院内助産）①②
    - (2) 病院における人材育成（キャリア開発・目標管理）
  - 2) 助産所における助産業務管理：（ ）
    - (1) 助産所の管理と実際1（運営管理・助産所業務）①②
    - (2) 助産所の管理と実際2（ ）
5. 周産期に関わる医療事故および災害とその対策：松本
  - 1) 周産期における医療事故①②：発表
  - 2) 助産業務における安全対策
6. 災害と助産師の役割・活動①②：宮里
7. 医療および助産業務の質とその評価
8. まとめ
 

助産師としての責任と役割：発表および意見交換

### 【履修上の注意事項】

授業を通して、助産業務に関わる安全対策、災害対策の具体的方法を考える。また、助産師業務の質を向上させるための課題と展望について考える。

授業5の課題：周産期における医療事故について、資料を準備すること

### 【評価方法】

筆記試験80%、授業への参加状況20%

### 【テキスト】

助産師基礎教育テキスト第2巻 日本看護協会出版会  
 新版 助産師業務要覧第2版 2 実践編 日本看護協会出版会

### 【参考文献】

授業中に適宜、提示・紹介する

## 助産学実習 I

担当教員 松本 鈴子、増山 利華

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

助産診断学技術学で学んだ理論および技術を実践の場で統合・活用し、母子保健医療チームの一員としての役割の理解、助産活動を展開するための基礎的能力を習得する。

## 【授業の展開計画】

1. 実習期間
  - 1) 平成29年7月19日(月)～23日(金) ①臨床オリエンテーション半日②臨床に即した分娩介助(学内演習)
  - 2) 平成29年7月3日(月)～14日(金) 2週間(施設によっては1週間)
2. 実習時間と実習場所  
原則として8:30～17:00とする(実習施設によっては24時間の待機制で実習を行う)。  
熊本県内3施設、福岡県内1施設
4. 実習内容
  - 1) 産婦を受け持ち、分娩第1期から4期の助産実践及び褥室への移送までのケア実践
  - 2) 出生後2時間までの新生児の健康診査  
\*実習施設によっては妊婦外来あるいは助産師外来で妊婦の健康診査の実施と保健指導の見学
5. 実習方法
  - 1) 原則として、分娩介助を1例見学後に、産婦を受け持つ。その際、学生が実施できる分娩セットや分娩野の準備、胎盤娩出等を一部の助産を指導助産師とともに実施する。
  - 2) 産婦を入院時から受け持ち、助産ケアを実施しながら、助産診断及びケア計画立案を行い、臨床指導者に助言を受ける。
  - 3) 産婦や分娩経過の応じて助産診断・ケア計画を修正・追加する。
  - 4) 助産実習 I では分娩介助1～3例を目標とする
  - 5) 分娩終了後に、分娩介助評価表を指導者に提出し、指導・助言を受ける。記録物は、分娩後3日以内に実習指導者に提出する。
  - 6) 次の産婦を受け持つ条件は、学生の学習効果を考慮して、指導助産師と分娩介助および助産・看護過程の振り返りを終え、次の受け持ちが可能であることを確認すること。
  - 7) 受け持ちケースがない場合には、助産診断・ケア計画等の実習記録の整理、また、指導者に相談のうえ、分娩介助見学、褥婦のケア、妊婦健診等の実習をする。
  - 8) 適宜、カンファレンスを実施する

\* 詳細は実習要綱参照

## 【履修上の注意事項】

助産学実習の要項をよく読んで実習に臨むこと  
実習中、臨床指導者に報告・相談をすること、また、適宜、担当教員にも連絡・相談をすること

## 【評価方法】

実習評価表にもとづき評価する。

## 【テキスト】

授業で使用した教科書・参考文献等

## 【参考文献】

適宜、紹介する



## 助産学実習Ⅱ

担当教員 松本 鈴子、増山 利華

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 8

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

助産学実習Ⅰで習得した専門的知識と技術を統合し、産婦と胎児、新生児、その家族が安全・安楽な出産体験になり、産婦の主体性を保証した出産となるよう助産過程の展開、及び、分娩介助の基本的技術を習得する。また、母子保健医療チームにおける助産師の役割について理解を深め、看護者としての必要な倫理的義務や責任について考えることができる。

### 【授業の展開計画】

#### 1. 実習期間

- 1) 助産学実習Ⅱ-1 平成29年7月17日（月）～8月11日（金）  
分娩介助数10例または実習目標未到達の場合8月14日～18日
- 2) 助産学実習Ⅱ-2 平成29年9月21日（月）～10月1日（金）

#### 2. 実習時間と実習場所

原則として8：30～17：00とする。（実習施設によって、産婦の受け持ちは24時間待機制で実習する）  
実習場所：熊本県内および福岡県内

#### 3. 実習内容

- 1) ①産婦を受け持ち、分娩第1期から4期の助産ケア、褥室への移送までのケア  
②出生後2時間までの新生児の健康診査とケア  
③出産後1か月の母子の健康診査とケア
- 2) ①妊婦の健康診査とケア  
②褥婦の健康診査とケア

#### 4. 実習方法

- 1) ①産婦の受け持ち、分娩介助については助産学実習Ⅰと同様に実習する。  
②助産実習Ⅱでは分娩介助10例を目標とする  
③新生児の出生後24時間以内の健康診査を、分娩介助3～5例と6～10例の間で、それぞれ1例（計2例）を評価表に基づいて臨床指導者の評価を受ける。
- 2) ①外来に受診されている妊婦を受け持ち、妊娠初期・中期・後期にある妊婦の健康診査を実施する。  
②受け持った妊婦のうち、一例の助産診断およびケア計画（保健指導）を作成し、評価、修正する。  
③褥婦と新生児を双方を受け持ち、健康診査及びケアを実施する。  
④受け持った褥婦と新生児のうち、1例の助産診断及びケア計画を作成し、評価、修正する。

\* 詳細は実習要綱参照

### 【履修上の注意事項】

助産学実習の要項をよく読んで実習に臨むこと  
実習中、臨床指導者に報告・相談をすること、また、適宜、担当教員にも連絡・相談をすること

### 【評価方法】

実習評価表に基づいて評価をする

### 【テキスト】

授業で使用した教科書、参考文献など

### 【参考文献】

実習中、適宜、紹介する

## 助産学実習Ⅲ

担当教員 松本 鈴子、増山 利華

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

ハイリスク新生児の両親とその家族の出生・入院に対する受けとめ、心理的变化について理解を深め、ハイリスク新生児の両親の生活・ニーズ・価値観などの特性を踏まえた親子の愛着形成や成長・発達促進へのケアを学び、助産師としての役割を考察する。

### 【授業の展開計画】

1. 実習期間  
平成29年10月4日（月）～10月8日（金） 1週間（各学生は1.5日）
2. 実習時間  
原則として8：30～16：30とする。
3. 実習場所  
福岡病院（総合周産期医療センター 新生児部門：NICU・GCU）
4. 実習の内容  
1) 周産期医療システムの概要      2) ハイリスク児の特徴  
3) ハイリスク母児のケア
5. 実習方法  
1) 総合周産期医療センターにおけるNICU・GCU のオリエンテーションを受ける  
2) 臨床指導者と調整し、ハイリスク母児のケアを見学する  
3) カンファレンスを開催し、学びの共有をする  
7) 実習終了後、実習での学びをレポートにまとめる

### 【履修上の注意事項】

助産学実習の要項をよく読んで実習に臨むこと  
実習中、臨床指導者に報告・相談をすること、また、適宜、担当教員にも連絡・相談をすること

### 【評価方法】

実習記録内容、実習終了後のレポート等から総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業で使用した教科書および資料配布等

### 【参考文献】

はじめてのNICU看護（メディカ）  
新生児発達ケア実践マニュアル（メディカ）

## 助産学実習Ⅳ

担当教員 松本 鈴子、増山 利華

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

## 【授業のねらい】

助産所における助産業務管理の実際を知り、対象の安全・安心を考慮したよりよい援助を提供するために必要な助産業務管理の機能と役割について考える。そのうえで、助産師としての業務の範囲や他職種、他機関との連携のあり方などの理解を深め、助産師としての自律と責任について考える。

## 【授業の展開計画】

## 1. 実習期間

平成29年11月27日（月）～12月15日（金）の2週間

## 2. 実習時間

原則として9：00～17：00とする。（但し、分娩やケアなどがある場合は変更になることもある）

## 3. 実習場所

北九州市 町の産婆さん

## 4. 実習の内容

## 5. 実習方法

- 1) 実習開始時に指導助産師（助産所管理者の助産師）に実習目標を発表し、その日の実習内容について確認及び相談する。
- 2) 指導助産師（助産所管理者の助産師）から、助産所運営・管理の実際（効果的な設備構造・安全管理・人員配置・情報管理・など）について説明を受ける。
- 3) 妊婦健康診査、分娩、母子の1か月健康診査、保健指導などの実際を見学あるいは一部実施する。
- 4) 助産所管理者や指導助産師とカンファレンス（実習最終日）を開催し、助産業務管理・運営やケアなどの実習体験を通して学んだこと、助産業務管理に関連する質問などを行い、意見交換する。
- 6) 実習終了後、実習での学びを実習目標にそってまとめる。

\*詳細は実習要綱参照

## 【履修上の注意事項】

助産学実習の要項をよく読んで実習に臨むこと

実習中、臨床指導者に報告・相談をすること、また、適宜、担当教員にも連絡・相談をすること

## 【評価方法】

実習評価表に基づいて評価をする

## 【テキスト】

授業で使用した教科書

## 【参考文献】

適宜、文献等を紹介する

## 地域母子保健実習

担当教員 松本 鈴子、増山 利華

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

市町村保健センターにおける母子保健活動の実際を通して、地域における母子保健行政の組織と機能、施策について理解を深める。また、地域で生活する母子の実態を把握し、助産師の役割、保健師との連携のあり方を考察する。

### 【授業の展開計画】

1. 実習期間  
平成29年11月13日（月）～11月24日（金） 2週間 （各学生の実習は1週間）
2. 実習時間  
原則として8：30～17：00とする
3. 実習施設  
熊本市中央管轄、有明管轄の市町村保健センター
4. 実習内容  
各市町村保健センターでの母子に関する活動内容
5. 実習方法
  - ① 事前に実習期間中の保健センターの事業内容・予定を把握し、学内で実習目標・計画を立てておく。  
実習初日に保健師の指導・助言を受け修正する。  
\* 乳児健診、育児相談、育児サークル新生児家庭訪問等母子を焦点にあて実習計画を立案する。
  - ② 原則として、集団指導は見学を行う。
  - ③ 母子の家庭訪問を1例行う。訪問事例については、事前に情報収集を行い、ケア計画を立てておく。
6. 実習報告会  
実習終了後学内において実習での学びを共有するために報告会を実施する。

### 【履修上の注意事項】

実習要項をよく読んで実習に臨むこと  
実習中、臨床指導者に報告・相談をすること、また、適宜、担当教員にも連絡・相談をすること

### 【評価方法】

実習評価表に基づいて評価する。

### 【テキスト】

授業で使用した教科書

### 【参考文献】

適宜、紹介する

## 助産研究

担当教員 松本 鈴子、宮里 邦子（非常勤講師）

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 1

準備事項

備考

### 【授業のねらい】

看護基礎教育で学んだ看護研究の学習をもとに、助産学実習で実践した助産や看護現象に焦点を当て、文献を活用し、分析、考察することによって、科学的思考力や判断力を養い、研究的解決策を迫る基礎的能力を習得する。また、論文作成の能力や、助産ケアの質向上に取り組む姿勢を養う。

### 【授業の展開計画】

1. 助産研究の方法
- 2-3. 研究課題・目的の検討
- 4-5. 文献収集及び文献検討
6. 研究課題・目的等の絞り込みと明確化
7. 論文の構成検討
- 8-13. 論文構成の沿って論文記述
14. 助産研究発表準備
15. 助産研究発表

### 【履修上の注意事項】

授業第1回目後に指導教員を決定する。その後は担当指導教員の指導を受ける。  
周産期にある母子やその家族に関連する助産・看護現象などに視点を当て、助産学実習の振り返りを論文としてまとめる。

各自の研究課題に関連した成書や論文を数多く読み、知識を深める。  
助産研究の発表は、助産師国家試験後に実施する。日程等の詳細は別紙配布する。

### 【評価方法】

論文70%、授業への参加状況（学習姿勢20%、発表10%）

### 【テキスト】

小笠原知枝他編：これからの研究－基礎と応用－，ヌーヴェルヒロカワ

### 【参考文献】

適宜、必要時に紹介